

平成28年度 第1回市川市史編さん委員会

日 時:平成29年3月22日(水)

18時00分～20時00分

場 所:全日警ホール(市川市八幡市民会館)

2階 第1会議室

会議次第

議 題 1. 「市川市史」編さん体制の方向性について

報 告 1. 第3巻、第4巻の進捗について
2. 平成28年度各調査部会の活動報告
3. 平成29年度事業予算について

連絡事項

閉 会

配布資料

- 資料 1 市川市史編さん基本方針
- 資料 2 刊行計画
- 資料 3 市川市史編さん委員会委員名簿
- 資料 4 「通史編」の内容について出された意見

市川市史編さん基本方針

1 趣旨

本市は、ここに市民共通の財産である市川市史（以下「市史」という。）の編さん及び刊行について、その根幹となる考え方を基本方針として表明するものである。

2 市史編さんの目的

市史の編さんは、次の各号に掲げる事項を目的とする。

- (1) ふるさと市川に対する理解と愛着を深め、市民文化の向上に寄与すること。
- (2) 市川市の原始・古代から今日に至るまでの歴史的変遷の過程、並びに固有の生活文化・民俗や市勢を明らかにすること。
- (3) 市川市の歴史の基盤をなす自然と環境について明らかにすること。
- (4) 貴重な自然や歴史・文化遺産を市民共有の財産として後世に継承すること。

3 市史編さんの方向性

市史の編さんは、その目的のために、以下の方向性に基づいて進める。

- (1) 市民にとってわかりやすく、親しみやすい市史とする。
新たに市史を編さんするにあたり、学術的にも高い水準を保ちながら、市民にとってわかりやすい表現で編さんする。また、時代のニーズに合わせ電子媒体を活用し、様々な年代の市民に受け入れられ、広く親しまれるものとする。
- (2) 調査資料や文化遺産が市民共有の財産として後世に継承される市史とする。
市民の協力を得ながら資料を収集するとともに、調査研究を進め、過去・現在の市川の姿を記録し、後世に継承する。
- (3) 市川の郷土を誇りに感じられる市史とする。
市川の固有の歴史や自然、先人の生活などについて取り上げ、豊かな郷土性を持たせることで、市民が市川を身近に感じ、郷土を誇りに思える内容とする。

4 基本計画

市史の編さんに関し必要となる具体的な計画については、別にこれを定める。

平成 24 年 5 月 8 日

市川市長 大久保 博

刊 行 計 画

○ 発行年

△ 調査報告書(資料集)等発行年

平成29.3現在

		75周年				80周年				85周年				
年度		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33
歴史編	第1巻 「地形と環境」						△						○	
	第2巻 「ムラとマチ」								▲					○
	第3巻 「まつりごとの展開」			▲		▲	△				○			
	第4巻 「変貌する市川市域」										○			
民俗編	第5巻 「民 俗(仮称)」								▲			△ ○		
自然編	第6巻 「都市化と生きもの」							●						
通史編	第7巻 「 」													○
写真図録「この街に生きる、暮らす」							●							
「市史研究いちかわ」		●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○

市川市史編さん委員会委員名簿（平成27年4月1日～平成29年3月31日）

平成29年3月現在

	専門	所属	氏名	関係する巻
1	環境史	明治大学名誉教授	すぎはら しげお 杉原 重夫	1巻
2	考古	明治大学教授	いしかわ ひでし 石川 日出志	2巻
3	古代史	明治大学名誉教授	よしむら たけひこ 吉村 武彦	委員長 2巻・3巻
4	中世史	東京大学史料編纂所教授	く る し ま のりこ 久留島 典子	2巻・3巻
5	近世史	昭和学院短期大学講師	むらた りゅうぞう 村田 隆三	2巻・3巻
6	近現代史	千葉商科大学大学院 客員教授	たけうち そういち 竹内 壮一	4巻
7	民俗	國學院大学講師	よねや よういち 米屋 陽一	副委員長 5巻
8	〃	東京家政学院大学教授	にしがい けんじ 西海 賢二	5巻
9	〃	千葉商科大学教授	くつき りょう 朽木 量	5巻
10	自然	千葉県生物学会	やまさき ひでお 山崎 秀雄	6巻

「通史編」の内容について出された意見

- 『図説市川の歴史』では通史編の代わりにはならない。もっと多くの情報、解説が必要である。
- 1巻から4巻まではテーマ別構成になっているため、通史という形でまとめる巻が必要である
- 市川市域よりは少し範囲を広げて、房総・東京というレベルを含めてわかる内容が良い
- 日本の歴史を交えて市川の事象をちりばめることはやめた方が良い。
- 1巻から6巻（歴史編・民俗編・自然編）を要約しただけの形ではあまり意味がない。ダイジェスト版にはしない。
- 「わかりやすく、親しみやすい」通史を作るのは難しいが、これを目指す意味はある。
- 市民にとってわかりやすくという点を踏まえると、引用・参考文献を記載せず、物語風に記述する方法がある。物語風な記述を避けたい場合は、「通史編」を読んでももう少し詳しく知りたい時に各巻にあたることができるよう、各巻の記載内容を受けた「通史編」とするのが良い。
- 最近の自治体史のなかで「これは良い」という『通史編』を見つけて参考とするか、あるいは、物語的な記述で小中学生にもわかるようなストーリー性のある形とするのかなど議論が必要である。最終的に刊行するかどうかも含めて小委員会で練った方が良い。

（平成27年3月25日 市史編さん委員会より）